



ロータリーの友便り

ロータリーの友
地区代表委員

庄野 晋吉

(大阪RC)

(1)ロータリーの友・3月号推奨記事 ※推奨記事順
【3ページ】

まず、今月のラビンドランRI会長メッセージです。

今月はマザー・テレサの逸話を取り上げておられます。そして彼女が「トイレ掃除のエキスパート」であることを誇りにし、訪問してきた企業のTOPに、まずトイレ掃除を教え、実践させた後に面談をすることを引き合いに出して、自ら行動して奉仕することが最も価値ある活動ではないかと言っておられます。勿論皆様も賛同されることですが、寄付行為だけの活動なら、世の中何処にでも存在しますが、我々ロータリアンの存在意義はここ（行動）にあると思います。

【29ページ】

2660地区大会の略報です。昨年12月4～5日に開催されました。我々が地区大会の略報ですが「高潔で高い道徳観で自らの生業を社会の為に発展させるのが我らの使命」と述べられた水野正人RI会長代理の歓迎晩餐会からスタートし、内容を効率化しつつも地区方針「変革を! ロータリーを通じて奉仕を!」の立野ガバナーの思いを示した大会だったことが、思い出されます。

なお、写真には晩餐会での酒樽鏡割りのシーンです。地区の重鎮の方々や松澤大会実行委員長、そして、水野RI会長代理の和やかで真剣なお顔がチラリです。

【36～45ページ】

2015年10月に開催されました国際ロータリー理事会の注目すべき記事です。今年度の理事会は15人の男性と4人の女性の理事で構成されていますが、日本からは杉谷卓紀理事が参加されています。今回は3日間で17件の委員会報告書を確認し、68件の決

定を採択しています。ラビンドラン会長はその挨拶の中で「今やロータリーの競合は、キワニスやライオンズではなく、生活そのものです。仕事、家庭、時間です。

ロータリーは進化し続けています。そして私は、そうした変化のプロセスの一端を担えることを嬉しく思います」と言っておられますが、小職はこれには驚かされました。

ロータリーの歴史の中で初めて「家庭」が取り上げられたのです。これは、ドラン会長とヒューコ事務総長、そして顧問団の意図が見え見えなのです。それは記事の中にも出てきますが、大きな課題として「増強」について議論し、特に「就労はロータリー入会の条件であるべきか」をカナダの理事が提示して、議論をしています。アメリカの二人の理事はそうした規定は、ロータリーの長きにわたる性差別問題を助長するだけ、と賛成しています。杉谷理事は反対されたのでしょうか?要するに「主婦業」を「職業」として認めようというわけです。主婦業はポールハリスの基本的考えにのっとって行われるのでしょうか?アーサーシェルドンの理論に合致するのでしょうか?「ロータリーの目的(綱領)」の上にあるのでしょうか?四つのテストが生かされる職業なののでしょうか?反論すれば限りなく主張が可能ですが、それでも、現理事会の執行部は「主婦の入会」を実施して人数を増やしたいと云っております。いろいろなご意見があると思いますが、ロータリーの根幹を変える事態と認識されます。

【28ページ】

大阪リバーサイドロータリークラブの震災支援活動報告です。東日本大震災の発生から今日までの支援の状況を報告しています。石巻市雄勝地区を中心に支援を実施していますが、中学校の全校生徒をユニバーサル・ジャパンに2泊3日で招待したり、流されてしまった和太鼓を寄贈して地元の伝統芸能「雄勝・伊達黒船太鼓」を復活させ、住民と中学生からなる太鼓軍団を1泊2日で、大阪に招待し大阪市立緑中学校で演奏して貰うなどの活動を展開して、石巻の中学生を元気付け、大阪の中学生を感動させて、生



きる喜びを分かち合っている記事です。そして、今後共に「思いと行動」を継続したいと結んでいます。

【14～17ページ】

「家庭健康教育プログラム」始動を表題にした神奈川県茅ヶ崎中央ロータリークラブの取り組みです。茅ヶ崎中央クラブは二つの重要な活動を実施しています。一つはロータリーが長年取り組んでいますポリオ撲滅ですが、なかなかゼロにならないパキスタンのポリオ支援について、支援はしっかりと先方の必要な部署に届いているのか、と言う疑問を解決する為に、渡航禁止となっているパキスタンの問題地域に3人の会員とクラブのアドバイザーであるAMDAの菅波代表が現地調査へ向かいます。

渡航前に日本でいろいろと調査をしていますが、ファルーク・アーミルパキスタン大使は、多くの寄付が必要なところへ行く前に、少し違った使途に使われていると感じているとお話をされています。

実際に現地で調査をしますと、カラチRCのポリオプラス委員長の話では、そこそこ目的に合った使途であることが判るのですが、ただ問題は、ポリオ発生の高い北西部の辺境州の農民層では、識字率は低くテレビもラジオもない生活なので、ポリオの知識に乏しいことが判明します。

そこからが、茅ヶ崎中央RCの皆さんの活動が凄いのです。パキスタンでは子供や女性と話すことが出来るのは女性に限られているため、まず「女性健康普及員」なる人材を多く育て、その普及員が各家庭を訪問してワクチンの接種の必要性などを母親や未婚の女性に教える活動をすることにしました。これが「家庭健康教育プログラム」と呼ばれる仕組みでして、まさにロータリーのテーマ「母子の健康」の推進です。現場・現物・現実を大事にした素晴らしい取り組みの記事です。

【70～71ページ】(友愛の広場より)

三重県の津ロータリー会長の中尾浩一氏の記事です。中尾さんは昨年末にラビンドランRI会長から挨拶状を貰われたのですが、「ロータリーへの御支援のお願い」をクリックしてみると、10～1000ドルまでで

出来る奉仕プロジェクトの事例が記載されており、ポリオプラスや六つの重点分野に使途を明確に指定できる寄付があるとされていたので、クラブへ報告しようと思われたそうです。

しかし、なんと、なんと、最後に「必ずしも上記のプロジェクトの為に用いられるとは限らないことを、御了承下さい」と記載されていたそうです。何という驚きの理不尽な書き込みでしょう!これが現在のRI活動の体たらくなのです。小職にも許し難い思い上がりの一端が見える記述なのです。主婦業を職業とし、本部が勝手に指定寄付資金を変える実態は、ロータリーの将来が危ぶまれる事実です。

(2)2660地区関連記事 ※上記以外

【58ページ】

「公德学園の子どもたちとクリスマス会」
(ロータリーアットワークより)

○東大阪中央RC 東大阪のホテルに地域内の児童有故施設の子どもたち50人と先生を招き楽しい企画いっぱいクリスマス会を開催した報告です。

【61ページ】

「クリスマス会のプレゼント」
(ロータリーアットワークより)

○東大阪東RC 市内の障害者施設・枚岡福祉会のクリスマス会を支援し、会員が着ぐるみを着て参加し参加全員を楽しませた報告です。お礼の寄せ書きが素晴らしい。

【64～65ページ】

ロータリー俳壇 大阪北……吉田邦男(優秀作)
ロータリー柳壇 大阪東淀ちゃやまち……小坂克彦